

第4回原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会 概要

日 時	平成30年5月8日（火）19:00 ～ 20:30
場 所	原野谷中学校図書室
出 席	委 員 18人 事務局 教育長、教育部長、企画政策課長、学務課長、学校教育課長 学校教育課指導主事、教育政策室長、教育政策室係長 教育政策室指導主事
内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 委員長あいさつ</p> <p>4 新規委員の委嘱</p> <p>5 自己紹介</p> <p>6 報告事項</p> <p>(1) 第3回地域検討委員会について ※事務局より説明</p> <p>7 協議事項</p> <p>(1) 原野谷学園の施設形態についてのメリットとデメリット</p> <p>(2) 多機能型、複合型施設の在り方や要望について ※グループワーク</p> <p>【1 グループ】</p> <p>一体型</p> <p><良い点></p> <p>「交流が広がる」</p> <p>① 児童、生徒の交流することの良さが出る。</p> <p>② 9年間同じ仲間と学ぶことができ、信頼関係が築ける。</p> <p>③ 交流できる。</p> <p>④ 中学生と小学生の交流の場が多くなる。(社会性の育成)</p> <p>⑤ 人間関係に悩んだ時に、近くに相談できる相手がいる。</p> <p>⑥ 小学生に見られていると思うと、中学生も頑張れる。</p> <p>「中1ギャップの緩和」</p> <p>① 小中の交流が盛んになることや多くの教員の目があることによる中1ギャップの緩和が図られる。</p> <p>「教育の質の向上」</p> <p>② 教職員の専門性を生かした授業により、質の向上がはかれる。</p> <p>③ 英語やプログラミング教育など、教育内容の変化に対応しやすい。</p> <p>「人が集まる」</p> <p>① 新しい一体型の学校の魅力で、当地に転居する人々が増える。</p> <p>② 9年間同じ場所へ通うことができる。</p> <p>「コスト面」</p> <p>① 教育予算は節約できる。</p> <p>② 建築費用が分離型よりも低く抑えられる。</p>	

<課題点>

「6年生のリーダーシップを発揮する場の減少」

- ① 上級生が下級生を甘やかすのではないか。
- ② 分離型における6年生としての学校を引っ張る体験ができにくい。
- ③ 小学校高学年の活躍の場の減少が考えられる。

「交流が広がることによる心配」

- ① 小1～中3まで一緒にいることにより、いじめが起こったときの対応は大丈夫か。
- ② ルールを守れない上級生や、思春期の男の子による下級生への影響が心配。

「学校の範囲の広がりによる登下校等の負担」

- ① 通学や家庭訪問の範囲が広がる。
- ② 通学時間が大幅に変わってくる可能性があるのではないか。
- ③ 小学生の通学の負担が増えるのではないか。
- ④ 通学が遠距離となることによる小学校低学年への負担が増える。

「組織のあり方」

- ① 教職員やPTA組織等の在り方について考え直す必要がある。

「コスト面」

- ① 用地取得や校舎建設にかなりの費用がかかることが予想される。
- ② 施設一体型の校舎を建てる場所を確保できるか。
- ③ 運動場や体育館等、9学年分の十分な広さが確保できるか。

「中学進学への期待感等の低下」

- ① 9年間、同じ校舎での教育となるため、進学への期待感が薄れる。

「おらが学校への思い」

- ① 昔からそれぞれの地域にあった学校がなくなってしまうことへの寂しさ。

分離型

<良い点>

「歴史」

- ① 長い学校の歴史が維持される。

「中学の進学」

- ① 新しい場所や環境で勉強できる。

「密な人間関係」

- ① 少人数により、より密接な人間関係を築くことができる。

「教師が子どもの様子を把握しやすい」

- ① 子どもの変化に気付きやすいのではないか。

<課題点>

「現状・子どもの人数」

- ① 原田小は複式学級になる可能性がある。
- ② 今のままの分離型では、児童生徒数の先細りが進む。

「教育活動が限定される」

- ① 少人数での活動内容がせまくなる。

「固定化せざるを得ない」

- ① スクールカーストを崩すのが難しい。

「コスト」

- ① 建築費用が施設一体型よりも高くなる。

<新たな学園づくりを考えたときに必要な施設や、地域の要望等について>

- ① 地域でも活用できる図書館
→地域の人でも使用でき、学校での子どもの様子も見られる。
- ② いこいの場
→年齢に関係なく集まり話ができる場があると良い。

③ 人口増につながる施設

→学校を建設しても、人が集まらないといけない。宅地が造成され、企業が集まることによりさらなる魅力のあるまちづくりが必要。新東名も生かしていきたい。

④ 教育面だけでなく、都市計画の考えも並行して考えていくべきである。

⑤ 学園の範囲を広げること視野に入れる必要がある。例えば、原野谷川流域（和田岡、原谷、原田、（原泉））を大きな学園として考えることも良いのではないか。

【2 グループ】

一体型

<良い点>

「小中一貫教育の実現」

- ① 児童、生徒の教育環境充実が図られる。
- ② 複数学級が可能となる。
- ③ 小中一貫教育を推進しやすい。子どもの交流や教員の移動時間がかからない。
- ④ 小中のつながりができやすい。
- ⑤ 小学校から中学校まで子どもの交流があって良い。
- ⑥ 他学年との交流がしやすいので、成長や思いやりが生まれる。
- ⑦ 連携教育が進められている中で、施設一体型にした方が、各児童や教職員の移動時間が短縮され、内容の濃い時間を過ごす事ができる。
- ⑧ 小学生は中学生の様子が分かり、見通しをもつことができる。
- ⑨ 上級生を見て日々の生活ができる為、新しい事への抵抗が少なく、多くの事へ視野が広がっていく。
- ⑩ 新しい発想の教育、交流、特色ある教育ができやすい。
- ⑪ 単学級ではなくなり、児童生徒の交流が増加する。
- ⑫ 小中の学年の区切を発達段階に応じて有効に変えることができる。
- ⑬ 学年の区切りを考えたとき、中学校1年生がリーダーとなるなど、意図的にリーダー性を養うことができる。
- ⑭ 年齢の違いがあっても交流が生まれやすい。
- ⑮ 一体型の施設であれば、生徒、児童の数も増えるため、子どもの友達の枠が今以上に広がっていく。
- ⑯ 異質な集団を形成して、人間関係に刺激を与える。

「建設」

- ① 施設の設置や維持管理が効率的である。
- ② 建設経費が安価である。

「地域」

- ① 原谷地区と原田地区の交流がふえる。
- ② 運動会、文化祭等地域の人が、行きやすくなるのではないか。

「新しい教育」

- ① 英語の勉強が小学生（低学年）から始めるなど、未来に向けて新たな教育を取り入れるべきだと思う。
- ② 一貫性のあるカリキュラムや指導方針を生みやすくなる。
- ③ 静浦小中一貫校の様な素晴らしい教育環境を整えるべきだと思う。

<課題点>

「風紀」

- ① 原谷、原田の地域の意見のまとまりができにくくなるのではないか。
- ② 一体型の場合、小学校から中学校へ進学する際、気持ちの切り換えが難しいのではないか。
- ③ 学年が下の子どもに、年上の良くない行動を見せるのが心配である。
- ④ 小学校6年生がリーダー性を発揮しにくいのではないか。
- ⑤ 人間関係が困難な状況になった際、9年間同じ場所で学習することへの不安がある。

「施設」

- ① 校舎の配置など工夫がなければ、教育効果も減ると考えられる。
- ② 9年間の成長を想定した施設整備が必要である。
- ③ 施設一体型を建設するならば、先進校を視察する必要がある。
- ④ 発達段階に合わせた施設を考えることが重要である。
- ⑤ 児童が安全に遊ぶ場所の確保が必要である。
- ⑥ 校舎新築の予算確保が必要である。
- ⑦ もし原野谷中学校の土地を考えるなら、敷地面積が足りないと思う。
- ⑧ 児童減少や建物の老朽化への対応が必要である。

「通学」

- ① 遠方の生徒の通学にも配慮が必要である。
- ② 登校時間や下校時間の変更
- ③ 学校までの通学方法で、遠い子どもにとっては、通学バスで行っても大変だと思う。
- ④ 遠距離通学が必要になる。
- ⑤ 通学方法が制限される。

「その他」

- ① 中学校だと部活動があるため、グラウンドの開放が容易ではないと思われる。
- ② 制服の関係で中学生と小学生の区別をすることも良いのではないか。
- ③ 9年間の一貫カリキュラム作成は大変である。

分離型

<良い点>

「教育」

- ① 発達の段階における他学年への影響を受けにくい。
- ② きめ細かい教育が受けられる。
- ③ 子どもと教師の距離が近い。
- ④ 常に小集団で学習する。
- ⑤ 既存の施設が利用できる。

「変わらない安心」

- ① 年齢に合った校舎や環境が与えられる。
- ② 今まで通り地域とのつながりが強くなりやすい。
- ③ 従来の地域で安心である。

「通学」

- ① 通学距離は変わらない。
- ② 通学、送迎が徒歩で行える。

<課題点>

「移動」

- ① 交流の際、子どもたちや教職員が移動しなければならない。
- ② 遠距離通学区の理解。スクールバス、天浜線利用など
- ③ 小学校から中学校への接続に関して中1ギャップはある。交流を活発に行うには移動手段が必要でデメリットでもある。
- ④ 交流に時間がかかり、効率的ではない。

「固定」

- ① 単学級でクラス替えがなく、人間関係が固定化する。
- ② 学習集団が限られる。
- ③ 小規模の為、複式学級になることも考えられる。

「施設」

- ① 施設設置に費用がかかり、施設維持管理の効率が悪い。

「その他」

- ① 特色ある教育、小中一貫教育にして学校区の枠組みを越えることができるのだろうか。
- ② 中学校で全教科の教員をそろえられない。

以上で協議を終了する。

8 連絡事項について

(1) 今後の予定について

ア 地域検討委員会・地域意見交換会

- ・ 第5回地域検討委員会 平成30年6月29日（金）19:00～
- ・ 第2回地域意見交換会（予定） 7月～8月

イ 新たな学園づくり保護者説明会

- ・ 原谷小学校保護者
平成30年5月19日（土）13:30～15:00 原谷地域生涯学習センター
- ・ 原田小学校保護者
平成30年5月19日（土）19:00～20:30 原田地域生涯学習センター

9 閉 会